日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

裾野麗峰山の会 (sine１９９４)

第２２期・７巻　２０１７年１月号　ＮＯ．１８９

仲間と仲間を結ぶ機関誌

れいほう

Susono Reihou Alpine Club

山行ＮＯ．１７１８
１２月３０日（金）仙丈ヶ岳・小仙丈尾根

もくじ

表紙
山々のブログ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2p
経過報告　全国連盟・県連盟・東部ブロック会議・・・・・・・・・・・3p
会山行報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4p
個人山行報告
今後の予定
その他・四方山話
今月のベスト・ショット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15p

「山々のブログ」　Ｎｏ．１６５

後藤隆徳

南ＡＬＰＳ・仙丈ヶ岳

年末に挑んだ仙丈ヶ岳（３０３３ｍ＝昔は仙丈岳、いつごろからか不明だが、何処かで変わった）は、冬数回上っているが、冬山初心者には上り易い山。また、北沢峠の小屋が営業してくれるのは心強い存在。私が初めて上った冬山でもある。過去の記録を調べた。

１．１９６８．１２．３０～１．５＝甲斐駒（摩利支天・独標ルート・水晶沢）、仙丈ヶ岳
２．１９７０．１２．３０～１．１＝仙丈ヶ岳（単独）
３．１９７５．１２．２８～１．１＝仙丈ヶ岳～塩見岳（いわゆる仙塩尾根・２名）
４．１９７９．１２．３０～１．１＝仙丈ヶ岳・地、蔵尾根～甲斐駒・黒戸尾根（２名）
５．１９９８．１２．２９～１２．３１＝仙丈ヶ岳・甲斐駒（６名）
６．２０１１．０１．０２～１．０４＝甲斐駒・仙丈ヶ岳（森林限界まで）・・・**仙丈は未登**
７．２０１４．１２．２７～１２．２９＝仙丈ヶ岳・地蔵尾根（４名）
８．２０１６．１２．２９～１２．３０＝仙丈ヶ岳（森林限界まで）・・・**未登**

記録は以上だった。５１年の登山人生で８回挑んだ。上れなかったのは２回。テント泊で行ったのは、１９９８年が最後だった。（２０１４年、地蔵尾根は無人小屋内でテント泊）ＮＯ．１は、初めての冬ＡＬＰＳが、甲斐駒摩利支天壁・独標ルートと水晶沢だった。摩利支天の帰幕は２２時の厳しい山だった。水晶沢は専門のバイル・１２本アイゼンがない時代の登攀だった。

ＮＯ．２は、単独。当時は、前夜発で中央線・伊那北駅まで行き、翌朝ＪＲバスで戸台に入った。現在は、冬バスは運行なし。寒い朝、伊那北駅で国鉄職員が出してくれた「熱いお茶」が忘れられない。若かったが、北沢まで４時間だった。

ＮＯ．３は今でも厳しい縦走。それほどトレースされていない。仙丈頂上から二人で縦走に向かうが「悲壮感」はなかった。嵐の三峰岳の上りは厳しかった。三伏峠下りでＭ労山に会い、労山入会のキッカケとなった。鹿塩まで長い下り。バスまで２Ｈあった。バス停が丁度酒屋で、初対面の初宴会で盛り上がった。

ＮＯ．４は、地蔵尾根～北沢峠～甲斐駒～黒戸尾根。飯豊連峰で遭難死したＭ労山Ｍ氏と二人だった。地蔵尾根は猛烈な嵐の中、登頂し北沢に降りた。ＧＰＳもない時代でよく歩いた。北沢にいるハズのピークハント隊と合流できず、二人で淋しい大晦日だった。

ＮＯ．５は、麗峰６名の大所帯でテン泊。最高齢は６５歳のＳ氏。荷物は２１ｋｇ。戸台発７：１５～北沢着１２：４５は速い。私は４９歳。全員、甲斐駒・仙丈に上ったのは立派。平均年齢５７歳。

ＮＯ．６は、強風で甲斐駒のみ。ＮＯ．７は、久しぶりの地蔵尾根だった。厳しい風の中、全員登頂。そして今回。思い出は尽きない。

１月度・例会報告　　０１月０８日（日）生協会議室１５：３０～１６：３０

出席者＝後藤・ＫＫ・ＨＡ・ＭＴ＝４名

イ．第６回・東部ブロック会議報告

2016年１２月１９日（月）　　場所：ちよっ蔵　PM７：００

出席者

伊豆ＨＣ：河合・（〇）鍋島（〇）三島労山：山口（〇）裾野ﾚｲﾎﾞｰ：小松（〇）・後藤（〇）沼津労山：植松（〇）駿東山の会：近森（〇）あさぎり山の会：斉藤（〇）山楽歩：加藤（〇）

計　９名

議　題

１、県連交流ハイク　　大平山　２０１７．１．１５（日）

※ 頂上での交流会は､恒例の会紹介は止めて､あさぎり担当でフォークダンスを行う。ラジカセ、カセット、ハンドマイク持参。

※ 今年はテーマを決める。「２０１７年は労山でエンジョイ！」

※ 司会進行は、ふじ山楽歩山の会の加藤が担当。

※ 提供するものは豚汁。１／10（火）の締めを待って各会の豚汁人数分を決める。取り敢えずは、各会２０人分を７会で用意する。

※東ブロは、１１時までに集合しトン汁を作る。

※ 県連の補助金5000円で不足が生じた場合ブロック費で補助する。予算は千円。

※ 雨天の場合、前日の１２：００の予報を確認後、加藤が各ブロック長に連絡。

２、５０周年記念レセプションの反省

※ 後部席まで話が聞こえて来ず、草野さんや小泉さんの折角の話が伝わらなかった。席の配置が悪かった。

※ 県連費で用意した飲食物はテーブルに出てこなかった。

※ 記念誌の購買数が少ないのでは？

３、来期のブロック長と会計の担当会は？

ブロック長・・・伊豆ハイク

会　　計・・・三島労山

５、その他

※ 技術訓練を連盟に依頼し、県連として講習会を開催することを理事会に提案する。

※ 県連理事会のあり方の改革を理事会に提案する。

※次期理事長は？

次回開催予定　２０１７年　３月１３日（月）　場所：ちょっ蔵　　ＰＭ７：００

ロ．第５０期　東部ブロック活動報告

東部ブロック　（７団体）

第１回　４月４日（月）　ちょっ蔵　６団体出席

※ 県連役職、ブロック役割の確認

※ ５０周年記念山行。一筆書きとし各会の山の割り当てをする。

※ ブロック交流会への取り組み。日程は９月１０日～１１日とし、山域は富士川流域、

叉役割分担を行う。

※ 平和行進への参加。５月１９日～２２日まで。各会でコース別に担当。

※

第２回　５月２２日（月）　ちょっ蔵　７団体出席

※ ５０周年記念誌の状況。

※ ブロック交流会の計画。

※平和行進への参加分担

第３回　７月１０日（日）　県連理事会後　６団体出席

※ ブロック交流会の取り組み。計画書の作成、翌日の山行分担、それに宿泊施設の手配、人員の把握、名簿作成など。

※ ５０周年記念誌の状況の把握。

第４回　８月２２日（月）　ちょっ蔵　６団体出席

※ ５０周年記念誌の状況。

※ ブロック交流会。ブロック交流会は人数の集まりがあまりに少なく中止と決定。

※ 山の日制定記念山行。10／16（火)富士山宝永山について、あさぎり山の会が担当。

※ 県連交流ハイク。山域を検討。

第５回　９月２６日（月）　ちょっ蔵　５団体出席

※ ５０周年記念誌の状況確認とレセプション関係の依頼と確認。

※ 県連交流ハイク。電車で行ける大平山に選定。コース、時間配分など計画書（案）を後藤氏に依頼。

第６回　１２月１９日（月）　ちょっ蔵　　７団体出席

※ 県連交流ハイク。2017. 1. 15（日）大平山。頂上でのアトラクション、出し物は豚汁に決定。司会進行、役割分担を決める。

今年はテーマを決めた。「2017 年は労山でエンジョイ！」

※ ５０周年記念レセプションの反省。

※ 来期ブロック長と会計担当の確認

※ 来期東部ブロックとしての計画と方向性

※

東部ブロック活動方針（案）

１、　ブロック交流会の交流を図る。

① 全体会員を対象に参加しやすい交流山行を計画、実施に繋げる。

② 冬季ブロック交流登山も呼びかけをして計画、実施に繋げる。

２、　技術訓練を連盟に依頼し、県連として講習会を開催することを提案する。

３、　県連理事会のあり方の改革を理事会に提案する。

４、　平和行進への参加。

ハ・１２月度・会山行実績

１．１２月２９日（木）～３０日（金）　　冬山合宿＝仙丈ヶ岳（森林限界まで）・・・３名

２．１２月１７日（土）　　忘年山行＝矢倉岳・北尾根・・・７名

二・１２月～１月・個人山行実績

１．０１月０６日（金）　　八ッ・横岳杣添尾根・・・後藤、ほか
２．０１月０５日（木）　　金時山・丸岳・・・沖
３．１２月２５日（日）　　越前岳・・・沖、室伏
４．１２月２４日（土）　　越前岳・富士見台東南尾根・・・後藤
５．１２月２３日（金）　　金時山・２回（強風中止）・・・後藤
６．１２月１１日（日）　　天城・青スズ台（リベンジ）・・・後藤
７．１２月０９日（火）～２０日（水）　戸台～北沢峠・・・小島
８．１２月０３日（土）～０４（日）　身延山（北東尾根～赤沢）・・・後藤
９．１２月０３日（土）　沼津ＡＬＰＳ・・・沖、室伏、峰田

ホ・１２月度・会山行報告

山行番　ＮＯ．１７１６　　文・写真　後藤

日　時　２０１６．１２．１７（土）無風快晴
山　域　矢倉岳（８７０ｍ）北尾根
参加者　後藤・勝又陽・沖・室伏・小島・峰田・長谷
コース　谷峨駅発７：０２―畑沢―三つ目橋―北尾根取り付き―６９９ｍ峰～
　　三角点・鷹落場（たかおちば・８１９．１ｍ）９：１４～最低コル～矢倉岳１０：０７～足柄
　　城址（昼食）１１：２５～１２：１５～駿河小山駅１３：３０―御殿場線１３：５１

以前から気になっていた、矢倉岳・北尾根に挑む。始発の御殿場線で行く。電車は暖房が弱く寒かった。そんな訳でもないだろうが、ちょっとイイことがあった。
霜で真っ白な谷峨駅を出発。こんな早朝からダンプが行き交う畑沢を進む。ダンプは畑沢の奥に砕石場があるからだ。東名を潜り橋を三つ渡った所が北尾根取り付き。

神奈川県・水源の森林

ＧＰＳにあらかじめルートを設定してきたので楽勝。余りに楽過ぎて今までの苦労は何？？！！だった。間伐の檜林を少し上ると山仕事の立派な道があった。この道を辿り難なく４６９ｍに上る。

山名表示板

天気は無風快晴。右手の梢の向こうに真っ白な富士山がチラホラ。ルートは特に藪もなく、植林地を上る。ただ、北面の植林地は、日当たりが悪く寒い。
６９９ｍ峰先で明るい自然林になった。ひと上りで、三角点がある鷹落場（たかおちば・８１９．１ｍ）着。この名称は、狩猟時代の名残か。立派な山名板があった。やっぱり好きな方がいらっしゃるようだ。少し戻り標高７００ｍまで下ると、足柄峠からの一般道に合流する。ただし、分岐に道標はない。鷹落場にハイカーが迷う可能性がある。急坂を２０分、矢倉に上る。頂上は素晴らしい展望が待っていた。先着が３名。

イイ感じのルートを上る

予定の時間より速く、昼食は早いので、足柄城址まで足を伸ばす。途中、頂上にいたアベックを抜かした。左手に矢倉が大きい。足柄峠は上りが意外と長く、以前からイヤなところ。昼食前にここを済ませるのは正解だ。足柄城址も更に素晴らしい展望だった。

矢倉岳遠望

先日の小楢山も良かったが、ここも素晴らしい。昔、「３６５度の展望」といった方がいたが、今日はそれに近いかも。（本来、３６０度だが、３６５日と間違えた＝笑い）昼食にする。続々と観光客・ハイカーが集まって来た。Ｋが手製のビアを上げてくれた。両神山で不調で飲めなかった、Ｈも「美味しい」と頂いた。このビアは、「ピルス風」とのこと。

午後はノンビリ足柄駅に下る。時間が早いので一旦家に帰り、沼津で忘年会でした。
結局、今年の山は、年末の冬山３日予定で、５８日、生涯１７１６回でした。ま、それに伊豆巡礼・富士山ウオーキングなどが加わりますが

足柄城址

山行NO　　ＮＯ．１７１８　　写真/小島・後藤　　文/１日目小島・２日目後藤
日　時　　２０１６．１２．２９（木）～３０（金）
メンバー　後藤（６９歳１０ヶ月）、加藤（ふじ山楽歩）、小島
山　域　　南ｱﾙﾌﾟｽ＝仙丈ケ岳（３０３３ｍ）小仙丈尾根
コース　　１日目（晴・－５度）
　　下土狩発５：００－富士ＩＣ（加藤合流）－あさぎり道の駅６：００（小島合流）
　　－甲府南ＩＣ－伊那ＩＣ－戸台発９:０５—旧丹渓山荘１２:２０－八丁坂ノ頭１３:
　　１４—大平山荘１４：１６－こもれび荘１４：３８（泊）
標高差　　戸台約１０２０ｍ～北沢峠約２０３３ｍ＝約１０１３ｍ（ただ、長い）
距　離　　下土狩～戸台（富士ＩＣ経由）＝約２３０ｋｍ

一昨年年末、地蔵尾根から仙丈ヶ岳に上った。今回は、北沢峠から小仙丈尾根を上る。当初、予定は２７～２９日だったが、２７日が悪天候で予定変更。やや雲が多い戸台発。駐車場は満車。登山届は本部にＦＡＸ済みで軽くパス。

一つ目の堰堤を越えると渡渉があった。一昨日の雨で戸台川の水量が多かった。ここは何回も来ているが、渡渉は初めてだった。暖冬の影響もあるだろう。何とか靴を履いたまま渡ったが、１人は靴を脱いで渡った。さぞ、冷たかったことでしょう。

その後も渡渉は、２～３回あったが何とかこなした。また、先週Ｋが偵察をしてくれたお蔭で先が読めて安心だった。戸台川の河原は長い。しかも、ゴロタ石だから歩き難い、歩き難い。２Ｈ歩き、日当たりの良い所で昼食。

この先が例の氷の丸太橋。前回は恐怖だったが、今回はまあまあだった。１Ｈ歩いて八丁坂に掛かる。雪面が最初から厳しいのでアイゼンを履く。ただ、全体的に雪は少ない。今年はどこも少ないという。

一人は靴を脱いで渡った

結構水が多い渡渉風景

長い河原

怖い怖い凍った丸太橋

八丁坂上り

ひと上りで八丁坂ノ頭（かしら）。ここから仙丈ヶ岳を仰ぐ。かつて、初めての冬山だった１９６８年の甲斐駒・仙丈もこんな風景だっただろうか。道はなだらかになったが、ダラダラ長い。大平山荘（おおだいら）は無人だった。

　こもれび荘着。小屋は既に多くの登山者で溢れていた。寝床は一階の奥だった。２階は上り降りが大変なので、年寄に配慮してくれた？？！！

　兎にも角にも、入山祝い。今回、Ｋが沢山酒を上げてくれた。ウィスキー、日本酒、手製の黒・ピルスビールが４Ｌ！！さぞ、重かったでしょう。お疲れ様。痛み入ります。そして、私がＫ提供のワイン。しかし、朝殆ど残っていなかったは、流石というべきか、凄い！

仙丈ヶ岳を仰ぐ

大平山荘

コース　二日目（晴・上部超強風・－１０度）　文・小島
こもれび山荘 6:26—大滝ノ頭五合目 8:24—森林限界 8:53—
大滝ノ頭五合目 9:18—こもれび山荘 10:18—八丁坂頭 12:04—丹渓山荘跡 12:45
—戸台 15:11—仙流荘 15:34—伊那ＩＣ17:42—甲府南ＩＣ18:51—道の駅 朝霧 19:27
～裾野・呼子 20:34
標高差　北沢峠２０３２ｍ　から仙丈ケ岳森林限界過ぎ２６６０ｍ＝６２８ｍ
摘要　クルマ移動=片道約 200km　山行時間=7:53

十二月三十日　金曜。五時半起床。室温１２℃。外気温マイナス６℃　晴れ。こもれび山荘で起床。正確には先夜就寝してから、二十二時に起きて飲酒。再度寝て二時頃から起き出してまたもや飲酒。丁度起きてきた先輩と一時間以上四方山話。
先輩は後藤さんと同じ、昭和二十二年二月二十二日生まれ。六十九才。北沢峠は毎年訪れるそうで、今年からは山には登らず、小屋で雰囲気を味わって帰るそうだ。学生時代は安保で大学がつまらない。そこで海外に貧乏旅行に出かけた。インドやアフリカを回る。現地の水や食べ物で下痢続き。それでも多くのことを学んだようだ。若い頃に見聞を広げ、苦労した人は強く逞しい。そして笑顔が優しい。

昭和２２．２．２２生まれの
ＭＫさん（後藤と全く同じ！！）

手製黒ビア

持参食料

小屋内

混んでいる

夕食

カラーお代わり
自由

五時半に起きた。朝食はスクランブルエッグ、ポテト、鮭の焼き物、漬物、蜜柑、味噌汁、御飯。御飯を四杯食べてお腹一杯。

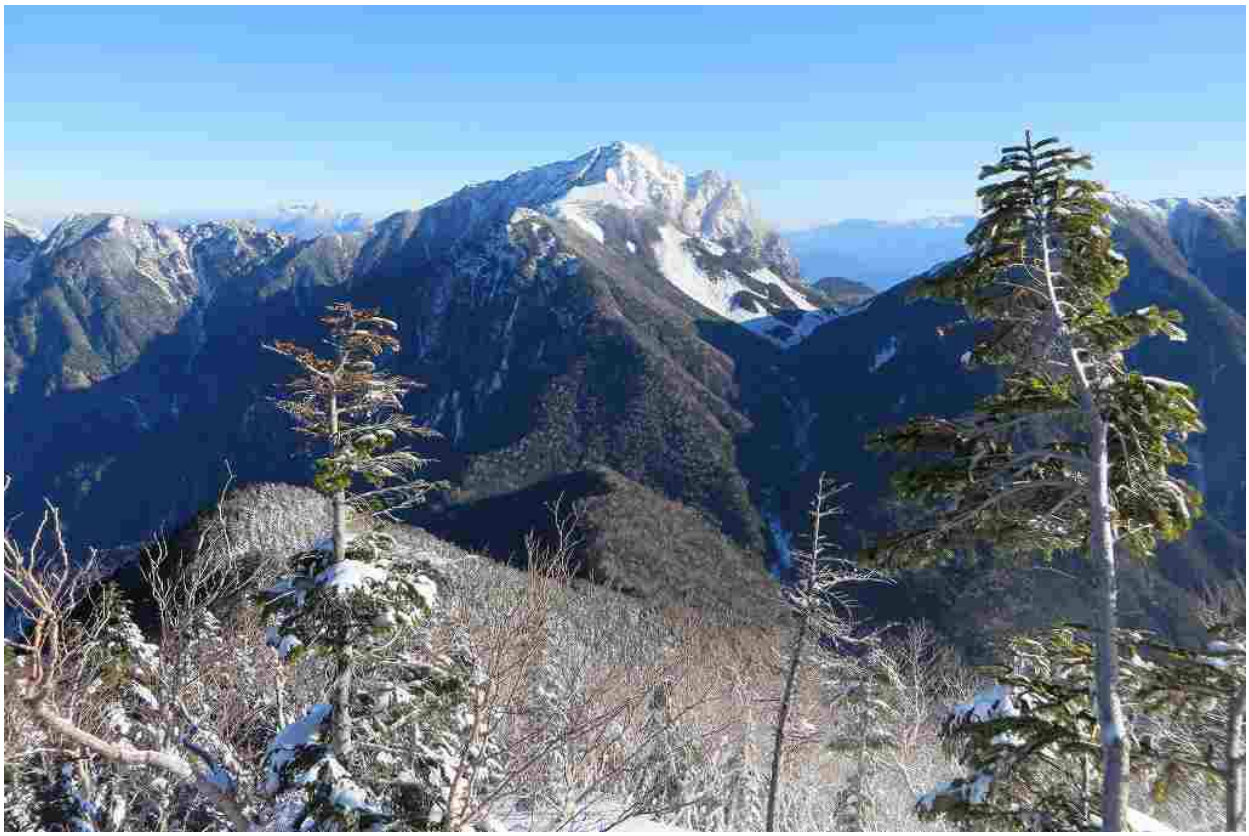
朝食

六時二十六分に小屋発。薄暗い森の雪道を三人でもくもくと登る。最初は１００ｍほどの多少キツイ坂道。その後なだらかな道を歩く。雪は冷たく締まっている。アイゼンが程よく効き、雪玉も付かな。重い１２本アイゼンだがよく雪面を捉える。登りが急だと前爪が有効だ。二時間ほどで五合目、大滝ノ頭。この辺りから下山者が散見される。皆一様に森林限界から上は強風で断念したよし。それでもリーダーは、風は止む、頂上に行けると二人を鼓舞する。

四合目

大滝頭

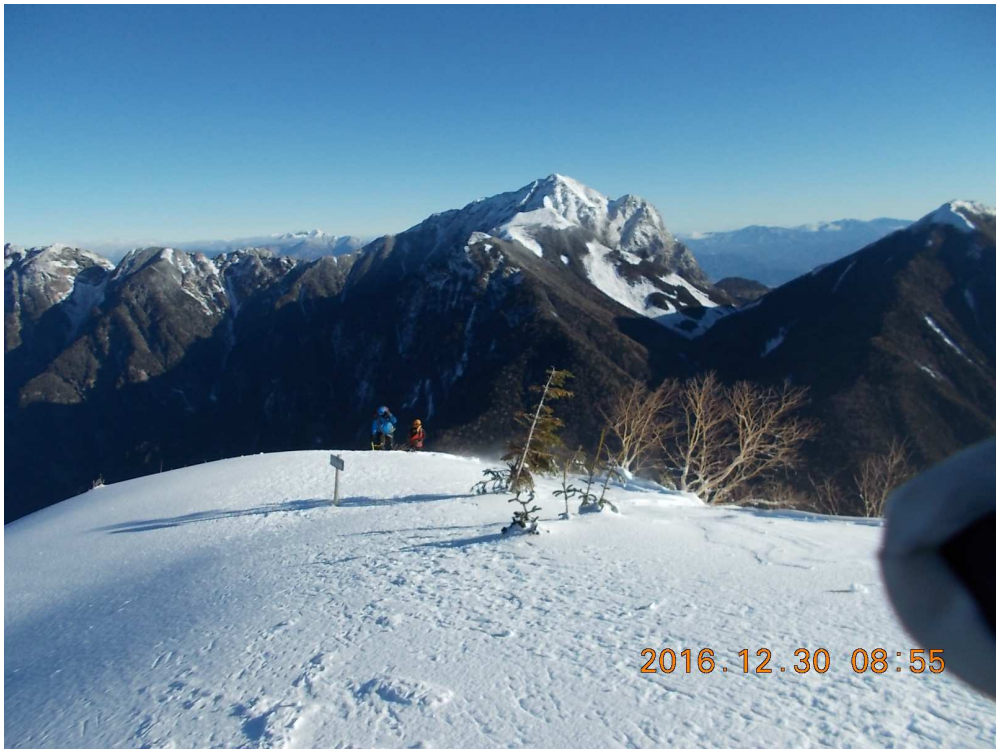
甲斐駒



甲斐駒（右）鋸岳（左）

ここは風なし

しかし森林限界を越えると風が一段二段と強まる。それまでの軟雪は姿を消し、硬く締まった雪。視界は良好だが北風が凄まじい。目の前に小仙丈が鎮座するがキツイ。初めて耐風姿勢を取った。尾根を５０ｍほど歩いて諦めた。山は逃げない。そこでカメラを取出し証拠写真を撮る。その為雪面に座り込んだ。そうしたら風が強くて起き上がることが出来ない。怖くて立てないのだ。登りより下りが怖い。恐る恐るへっぴり腰で森の中に逃げ込む。こちらは別世界。雪山で怖い事はまず風だ。転んだら斜面を落ちる。どうなるか分からない。それにしても甲斐駒が素晴らしい。



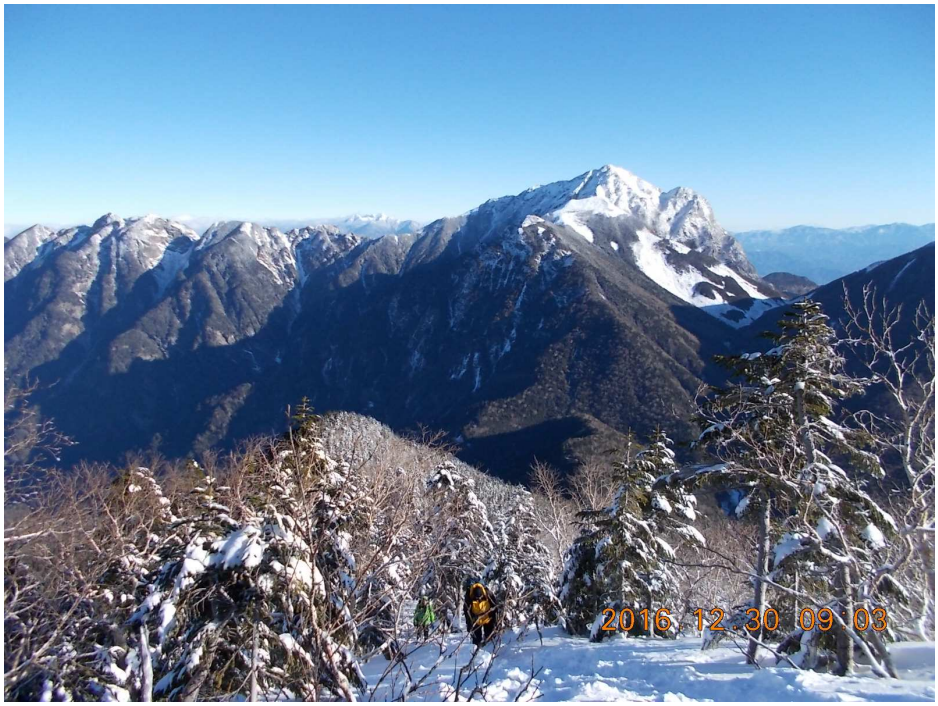
森林限界

森林限界

下山

凄い雪煙の北岳

十時過ぎに小屋に戻った。後藤さんが明日再チャレンジするかと聞く。私はもう結構と答える。それならと予定を早め下山する事に成った。また長い山歩きで気が重いが、早く帰宅できるのは嬉しい。
残った食料で昼食。十一時に下山開始。帰路では多くの登山者とすれ違った。幕営で大きな荷物を背負う若者が多い。私の先週の２６ｋｇなど、まだまだ序の口。見るからに４０ｋｇ近いザックが次々に現れ、もくもくと雪道を登ってゆく。大したものだ。八丁坂の悪場、渡河、長くて単調な河原歩き。それでも四時間で戸台に辿り着いた。帰路仙流荘で温泉に入り食事。帰宅は二十時半。疲れた。
いつもは幕営で独りきり。今回は小屋泊り。それも年末年始で同宿の方々は皆山オタク。波長が合うようで誰とでも楽しく会話ができる。この雰囲気だけでも五時間雪道を歩く価値がある。また今回は雪山の楽しさ、美しのみならず、厳しさ難しさを実感できた。



若い女性二人

下山時の小仙丈尾根

その他の記述（後藤）

１．こもれび荘は、旧長衛荘。宿泊料金は９５００ー。トイレは水洗でキレイ。
２．寝室は、カーテンで仕切られ、プライベートは確保されている。遮光もされて良い。
３．夕食は豪華で食べきれない。次回は空タッパを持参し、翌日の行動食に回すとよい。今回はＫ氏に食べて貰った。ただ、年配者は食べきれないから、減らして料金を下げたほうが有難いが。
４．Ｋ氏持参の「黒ビア」は美味しかった。
５．生年月日が全く同じだった方は、渋谷区在住のＭ氏。初めての体験。奇遇だった。帰静し、すぐ賀状を送った。
６．この日、仙丈ヶ岳登山者は約５０名。下山し八丁坂ノ頭から仰ぐ仙丈は、更に激しい雪煙だった。恐らくこの日は誰も上れなかったのではないか。ちなみに甲斐駒のあさぎり山の会２名も、強風で登頂を断念したとのこと。
７．食堂で交流した東京の女子２名も途中下山。ただ、頑張って翌日再アタックという。ただ、結果は未確認。
８．下山しながら上って来る方々と会話。５０名くらい会ったが、殆どテント泊。テント泊の年配者にいちいち年齢を確認。最高年齢は７２歳。ただ、この方は若い衆が共同装備を背負い、自身は個人装備だけだった。八丁坂手前で会った方は６６歳。一昨年も来たが上れなかったと言った。皆さん高齢だが元気イッパイ。当方、まだまだ修行が足りないか。
９．小屋の荷揚げは、林道を特別に開けて貰い、車で歌宿沢まで運び、そこから「ソリ」で小屋まで引っ張るという。痛み入ります。小屋主人は、私の名前を憶えていてくれた。

山よサヨナラ～

・山行Ｎｏ．１７１３　　写真・文　後藤
・日　時　２０１６．１２．０３（土）無風・快晴・高温
・山　域　身延山（１１５３ｍ）北東尾根
・コース　山額「龍雲寺」・飯縄神社発８：２１－炭焼き跡９：３５－標高約９００ｍ—北尾根標高約１０００ｍ１０：２６－パラボナアンテナ１０：５０—山頂１１：００－赤沢分岐—昼食１１：３０～１２：１５—感井坊（かんせいぼう）—十萬部寺—赤沢１４：３５
・参加者　後藤・ほか
・標高差　飯縄神社～身延山＝約９２８ｍ

重要伝統的建造物群保存地区・赤沢

Ｒ５２を飛ばし、身延山入り口先の下山（山額）着。Ｒ５２から龍雲寺に上り途中右折して、飯縄神社着。普通車４～５台の駐車場あり。標高２２５ｍ。ここから登山開始。天気は無風快晴。気温は途中の寒暖計が２度だった。
神社に安全登山を祈願しスタート。神社左に昔の堀道があり、それを上る。ここは、かなり先の標高９７７ｍに法明寺がある。それを考えると、古の身延山の登拝道だっただろう。すぐの所に鉄塔があった。
標高５６２ｍ付近から物凄い急登が続く。尾根はハッキリし、やや岩っぽい。やがてヒノキの植林帯に入る。ヒノキを間引き伐採した残骸が放置してあり上り難い事、この上なかった。

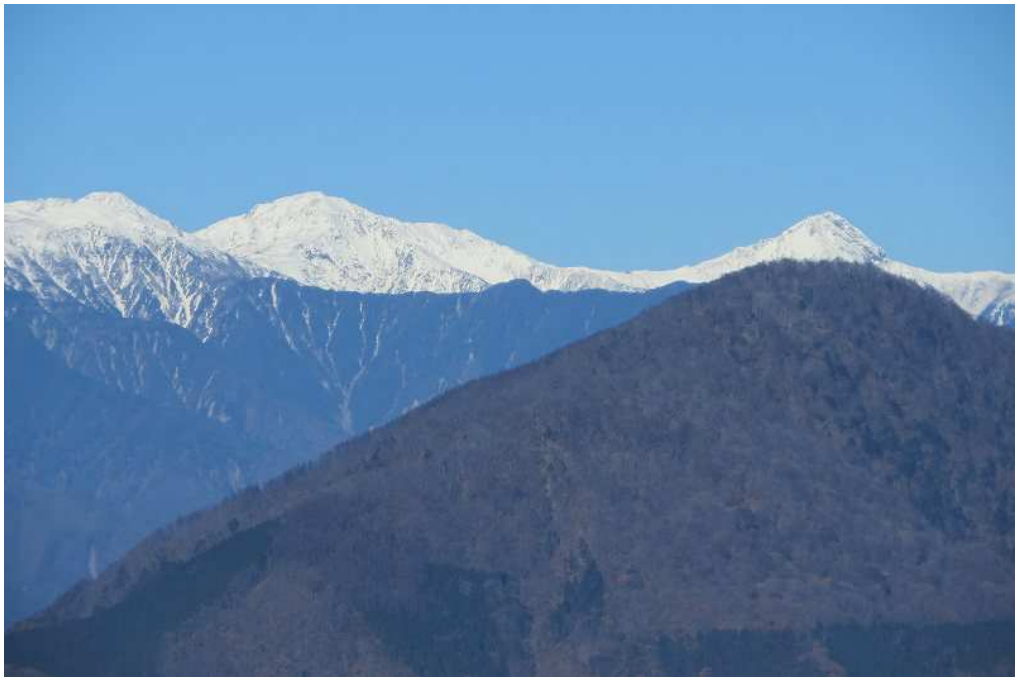
余りに上り難いので、標高９００ｍ付近で北尾根に逃げた。北尾根は左（東）が今上って来た植林帯。右（西）は自然林で綺麗な尾根が続いていた。従って、次回があれば、下山・妙見寺からの尾根を上るのが正解と思われる。
綺麗な尾根を上ると、パラボラアンテナがあって、その先が身延山最高点。三角点はない。奥の院に降りてお参り。参拝者が多い。当たり前だが、全て「ロープウェイ」のお客様。その先の展望台で真っ白なＡＬＰＳを仰ぎ、赤沢に下山。
途中の感井坊（かんせいぼう）、十萬部寺はなかなか趣があった。感井坊では、５００－で販売の鈴をくれた。何でもこの魔よけの鈴は、「貰わないと」御利益がないというが、ホント？？！！

赤沢集落は、素晴らしい空中都市だった。ただ、ソバ屋が１５時までで、食せなかったのが残念。今度は、皆と遊びたい所です。

飯縄神社から北東尾根

何という、レレレの岩

奥の院



ＡＬＰＳは真っ白

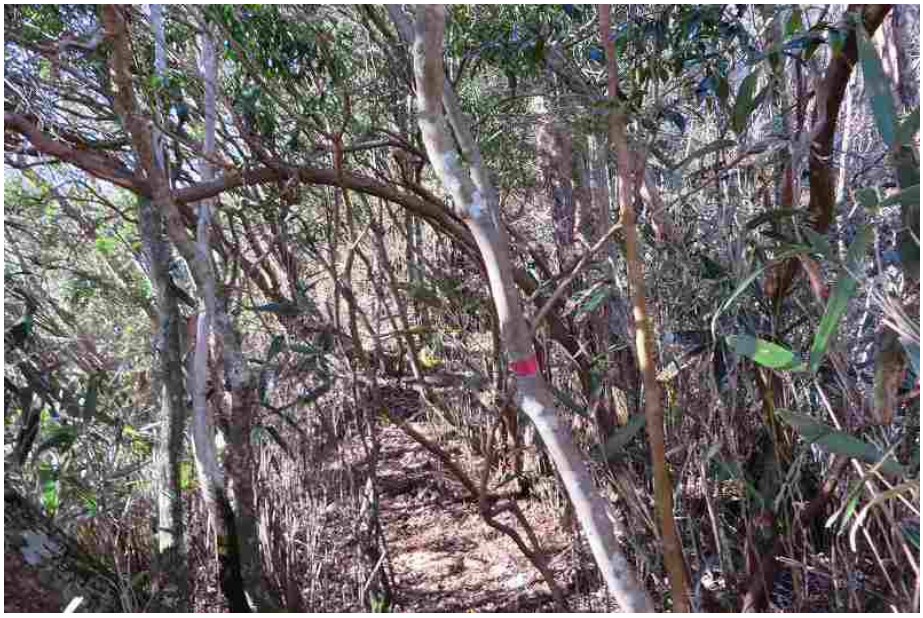
赤沢・江戸屋さん

山行NO　　ＮＯ．１７１６　　写真・文　後藤
日　時　　２０１６．１２．２４
山　域　　越前岳・富士見台南東尾根
コース　　山神社９：００－南東尾根取り付き９：３０－富士見台１１：３５－越前岳１１：５２～１２：００－愛鷹山荘の南尾根—山神社１３：３０
参加者　　単独

不法伐採者は何処の誰だ

一昨日、強風で山行中止だったので、急遽出かけた。
コースは、以前から気になっていた、越前岳・富士見台東南尾根。天気は無風快晴。
山神社から出発。車は多い。大沢は３日前の大雨で増水。右岸を進み、橋を渡り、標高約９００ｍが取り付き。しばらく藪っぽかったが、次第にハッキリした道になった。

何方かが笹を刈ってくれてあり上り易い。しかし、物凄い急登。ただ、１１５０ｍ付近で下刈りはなくなってしまった。ここで下山したかもしれない。
ここからモーレツな藪漕ぎが標高約１３００ｍ付近まで続いた。位牌岳北面の北尾根とかＧ尾根は藪はない。何故か？？北面と南面の違いだ。ここは南面故、笹とかの生育が良い。
１３００ｍ付近から、ようやく笹は無くなったが、今度は厳しい岩尾根が続いた。２０ｍザイルは持参したが、単独では使いようもない。右に左に岩稜を巻いて上る。
空が切れ、ようやく標高約１３２０ｍの富士見台着。厳しい尾根だった。富士山撮影者が突然の闖入者に驚いたようだ。越前岳をきわめブナ植樹地のロープを点検し下山。ただ、頂上休憩場東の太いミツ葉ツツジと馬酔木が切られていたのには驚いた。（写真・参照）被疑者未特定で静岡森林管理署に告発した。
愛鷹山荘をパスして手前の尾根を下る。越前岳に上る時、下って来た若い衆に駐車場手前で追いついた。今回は、予想外の厳しい尾根だった。



南東尾根

誰が何の目的で切った？？！！

我が子を殺めると同じ行為

酷い話だ、辛いことだ、不幸なことだ

」

山行NO　　ＮＯ．１７１９　　写真・文　後藤
日　時　　２０１７．０１．０６（金）無風・快晴・高温
山　域　　八ッ・横岳（２８２９ｍ）杣添尾根
コース　　下土狩５：００ー海ノ口登山口発７：５０ー森林限界１０：５２ー三叉峰（さんじゃほう）
　　上１１：５０ー横岳１２：０９ー登山口１４：４６
参加者　　後藤・ほか

２０１７年・初登山でした

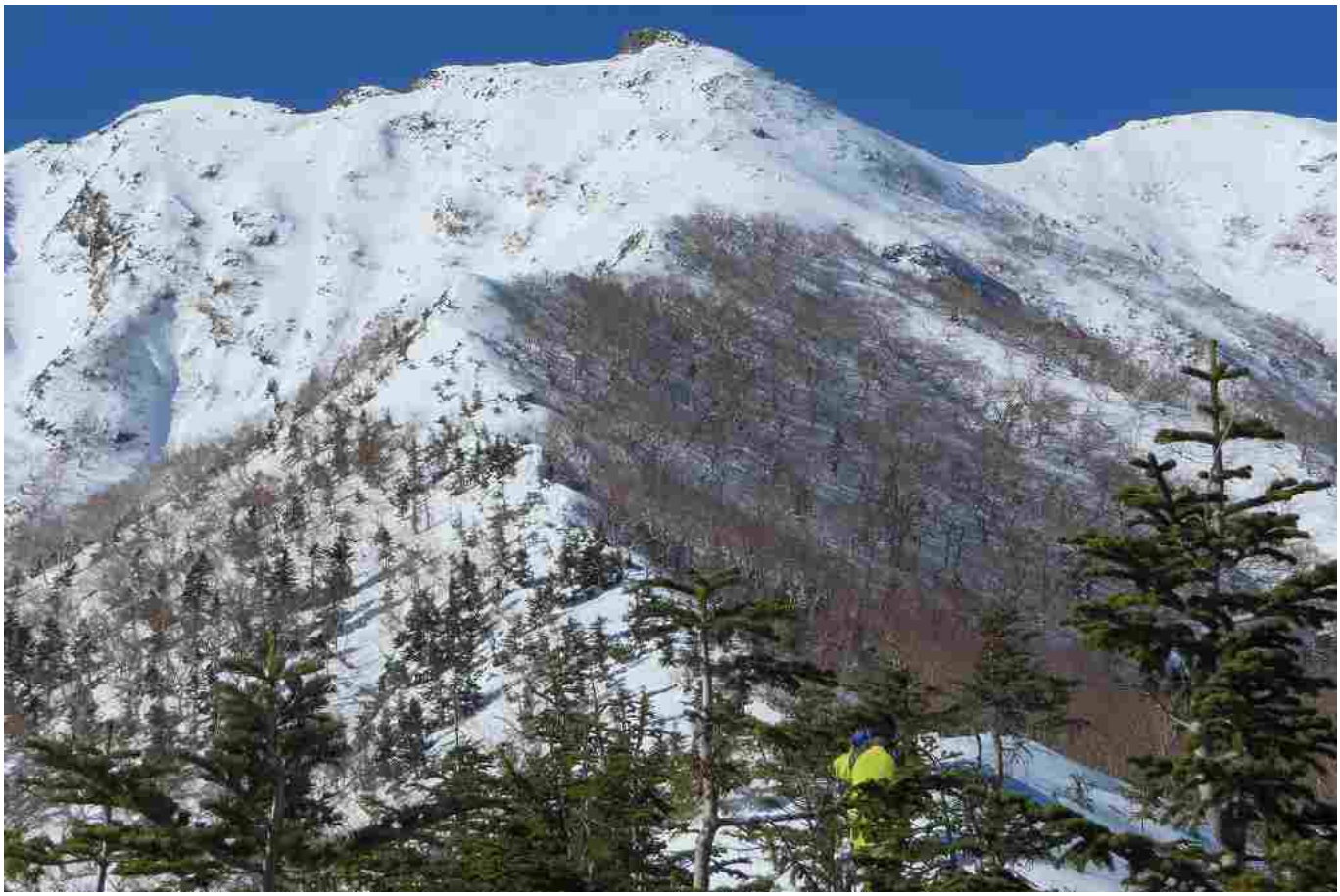
海の口駐車場は、昨年苦労したので今回は一発で分かった。駐車場には、「伊豆」ＮＯの車が１台。上部の足跡から、今日か一昨日の先行者のようだ。ただ、姿は確認出来なかった。
天気は無風快晴高温。道々、八ヶ岳は雪が少なく黒かった。今年は何処も少ない様だ。アイゼンなしで出発。気温が高く、ヤッケの上下・ジャンパーを脱いだ。それでも暑かった。道は次第に氷道になり、標高２０００付近でアイゼンを装着。
後ろから男性が一人来た。聞けば、年齢は６６歳。房総と八ッ・大泉に別荘があり、今日は大泉から来たという。昔、緑山岳会に在籍し登攀三昧だったらしい。しかし、ある時、上から登攀者が落ち、巻き添えになり膝を骨折し、山は止めたという。再開は２～３年前だそうだ。古い登山家をよく知っていた。有名な森田　勝も知っていた。
結局、この日の杣添尾根は３名だった。別荘氏は、速いので先に行って貰った。森林限界に出た。相変わらずここからの赤岳は見事。富士山も大きい。３月に比べると、やはり雪が少なく、ブッシュが多かった。縫うように進む。

赤岳

　小ピークを越えたところで、ストックからピッケルに変えた。三叉峰の上りに掛かった。雪が少なく、ガジガジの氷で上り難い。昨年の３月は、雪が多く楽だった。三叉峰を越えて縦走路に出た。稜線は風が無かった。年末の仙丈の風が嘘の様だった。

　降りたところで、空腹を満たす。鉄製の梯子を二つ上れば、横岳頂上。まあまあの時間。別荘氏が休んでいた。頼まなかったが写真を撮ってくれた。サービスが良かった。
時間は早くないのですぐ下山。三叉峰下りは、イヤらしいが前向きで下れた。初心者はザイルが欲しいだろう。ここを降りれば、後はブラブラ下るだけ。振り返ると、別荘氏が三叉峰を下っていた。
　ただ、後ろ向きだった。しかも、左手にストック・右手にピッケルだった。ストックは、邪魔で役に立たない。ピッケル一本にすべきだ。また、後ろ向きは視界が悪く、下り難いものだ。ヒヤヒヤで目を背けてしまった。

途中のシラビソの寒暖計はマイナス６度だった。歩きにくい氷道を下り駐車場着。
２０１７初登山、イイ山だった。別荘氏がなかなか下山しないで、ちょっと心配でした。



二・今後の予定

	年末	仙丈ヶ岳・小仙丈尾根（リベンジ山行）
	０５月連休	唐松岳～五竜岳（リベンジ山行）
	０４月２２日（土）	ハイクの日＝
	０４月１５日（土）～１８日（火）	山岳スキー＝火打山～笹倉温泉
	０４月０８日（土）	定例ハイク＝
	０４月０２日（日）	**４月度・例会**
	０３月３０（金）～４月１日（土）	山岳スキー＝守門岳・浅草岳
	０３月２４日（金）～２５日（土）	谷川岳・西
黒尾根（リベンジ山行）		
	０３月１７日（金）～１８日（土）	登山とスキー＝山の神尾根
	０３月１２日（日）	**３月度例会**
	０３月１１日（土）	定例ハイク＝十枚山
	０３月０５日（日）	第５１回・県連総会
ＮＯ．１７２６	０３月３日（金）～４日（土）	登山とスキー＝乗鞍岳
ＮＯ．１７２５	０２月２５日（土）	ハイクの日＝
ＮＯ．１７２４	０２月１８日（土）	リベンジ山行＝大菩薩嶺

	０２月１１日（土）	
	０２月０５日（日）	**２月例会**
ＮＯ．１７２３	０２月０３日（金）～０４日（土）	本沢温泉～天狗岳
ＮＯ．１７２２	０１月２８日（土）	リベンジ山行＝石割山
	０１月２２日（日）	理事会
ＮＯ．１７２１	０１月２０日（金）～２１日（土）	雪山
ＮＯ．１７２０	０１月１５日（日）	初登山＝県連交流ハイク（東部担当）＝蒲原・大平山

ホ・学習会・・・今回はなし。

以上

付録・速報＝２０１７・県連交流ハイキング　１月１５日　蒲原・大平山

老いも若きも・マイムマイム、レッセッセ

時々、グライダーも飛翔

全部で何人でしょう？？！！（１０５名でした）

「２０１７年は労山でエンジョイ！」

１月号・了